

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社エンジニア・ライティング大和事業所新築工事	階数	地上5F
建設地	神奈川県大和市深見西八丁目490番2、492番1及び2	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	150人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年5月 予定	評価の実施日	2023年05月20日
敷地面積	1,749 m ²	作成者	田中土建工業㈱藤沢支店一級建築士事務所
建築面積	949 m ²	確認日	2023年05月29日
延床面積	3,570 m ²	確認者	田中土建工業㈱藤沢支店一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 0.7</p> <p>★ ★ ★ ★ ★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>★ ★ ★ ★ ★</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値: 100% (0 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>②建築物の取組み: 98% (46 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>③上記+②以外の: 98%</p> <p>④上記+: 98%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。</p>	<p>Q2 サービス性能 (スコア: 5)</p> <p>Q1 室内環境 (スコア: 3)</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内) (スコア: 2)</p> <p>LR1 エネルギー (スコア: 3)</p> <p>LR2 資源・マテリアル (スコア: 3)</p> <p>LR3 敷地外環境 (スコア: 2)</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Q のスコア = 2.5</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0</p> <p>音環境: N.A. 温熱環境: N.A. 光・視環境: N.A. 空気質環境: N.A.</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.1</p> <p>機能性: N.A. 耐用性: 2.9 対応性: 3.3</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 2.1</p> <p>生物環境: 1.0 まちなみ: 3.0 地域性: 2.0</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 2.9</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.0</p> <p>建物外皮の: 5.0 自然エネ: 3.0 設備システ: 2.2 効率的: 3.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.9</p> <p>水資源: 2.2 非再生材料の: 3.1 汚染物質: 3.3</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.8</p> <p>地球温暖化: 3.0 地域環境: 2.6 周辺環境: 3.0</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>小田急江ノ島線鶴間駅から徒歩で20分の準工業地域に、事務所と複合用途の倉庫を、S造、5Fにて計画した。</p>		<p>その他</p> <p>特になし。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>評価対象外。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>給水SUS(C)、給湯VLP(C)、排水VP(B)を使用。 0.1≤[壁長さ比率]<0.3 床荷重: 5000N/m²</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>特になし。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>BPI=0.7</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>「躯体+軽鉄+仕上げ材」により、躯体と仕上げ材が容易に分別可能。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ガス温水給湯暖房機の排出値(NOx)が排出基準値の90%より小さいです。 適切な台数の自転車置場(バ)位置を含む)及び駐車場に加えて、荷捌き車両の駐車施設も確保している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される